

子どもと防災や安全について考える本

子どもと一緒に外出することが増える夏ですが、それにもなつて、災害や事故に巻き込まれることがあるかもしれません。日頃から、子どもと防災について考え、事故を未然に防ぐためにおすすめの本を紹介します。

NEW



キャンプ気分ではじめるおうち防災チャレンジ BOOK

鈴木みき著 / エクスナレッジ / 2023.3

子どもも大人も親しみやすい「アウトドア」「キャンプ」のグッズやスキルを、在宅避難に役立ててみませんか。登山イラストレーターで防災士でもある著者が、食事やトイレ、水や燃料の節約テクニック、衣類や電力の備えなど、様々なライフハックやアイデアを紹介します。「おうち防災」を、身近に考えるきっかけにおすすめです。

命を守る防災 GUIDE 完全保存版

Hanako 特別編集 / マガジンハウス / 2022.9

防災かあさん

みんなの防災部署 / 羽鳥書店 / 2015.3



MIWビデオサロン上映予定

MIWでは14:30～、18:30～に、所蔵する映像作品を上映するビデオサロンを開催します。上映後には、感想を語りあう交流会を開きます。事前申込みは不要です。ぜひ、ご参加ください。

8月18日(金)上映作品(予定)「岬のマヨイガ」

監督/川面 真也 2021年/104分/日本



ある事情で家を出た17歳のユイと両親を事故で亡くしたショックで声を失った8歳のひより。居場所を失った二人は、不思議なおばあちゃん・キワさんと出会い、海を見下ろす岬に建つ、古民家「マヨイガ」に住むことになる。ある日「ふしぎ」と呼ばれる妖怪たちが、町であいつく怪奇現象を調べるためにキワさんを訪ねてきた。

©柏葉幸子・講談社/2021「岬のマヨイガ」製作委員会

MIWのInstagramを開設しました!

みゆうじろうのオススメ本や、MIWの講座やイベントのお知らせなどを発信しています。フォローお待ちしております!



Instagram

千代田区男女共同参画センター MIW (ミュウ)

〒102-8688 千代田区九段南1-2-1 千代田区役所10階

電話:03-5211-8845 FAX:03-5211-8846

Eメール:miw@city.chiyoda.tokyo.jp https://miw.city.chiyoda.lg.jp/

Instagram:chiyoda.miw Facebook:@chiyoda.miw

開館時間/月～金 9:00～21:00 土 9:00～17:00 日曜・祝日休館

ホームページ



メルマガ登録



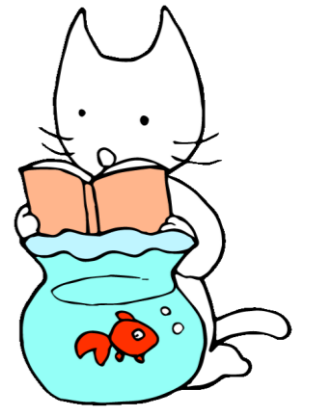
ライブラリニュース みゆう

2023年7月 98号

千代田区
男女共同参画センター

MIW (ミュウ)

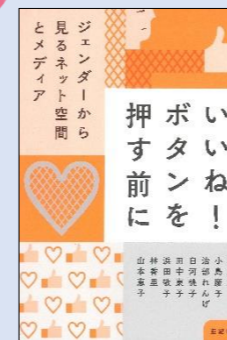
MIWマスコットキャラクター
みゆうじろう



SNS・メディアリテラシーに関する本

SNSやメディアの発達、生活に豊かさをもたらすと同時に、人との繋がり方も多様になってきました。しかし、そこで得られた情報が常に正しいものとは限りませんし、誰でも発信できるからこそ危険に遭遇してしまうことも多々あります。「情報を得る」と、「情報を発信する」ために、どのような配慮や注意が求められるのでしょうか。SNSやメディアの使いかたを考えるためにおすすめの本を紹介します。

NEW



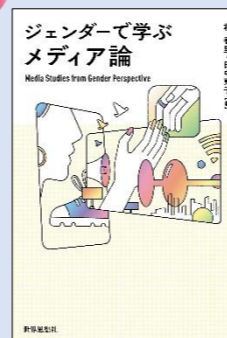
いいね! ボタンを押す前に

: ジェンダーから見るネット空間とメディア

李美淑、小島慶子ほか著 / 亜紀書房 / 2023.2

SNSを使えば、誰でも情報を気軽に発信できる時代になりました。しかしその気軽さは、「ジェンダーバイアス」など、気づかぬうちに誰かを傷つけることがあるかもしれません。そうした「SNS時代」のこれからを考える一冊です。

NEW



ジェンダーで学ぶメディア論

林香里、田中東子編 / 世界思想社 / 2023.3

インターネット、テレビ、新聞などのメディアは、いつも何気なく接するものだからこそ、ジェンダー的な表現でモヤモヤすることもしばしば。この本は、そうした男性中心に作られてきたメディアのあり方そのものを解きほぐす論考が多く収められています。



男性育休



男性育休の社会学
中里英樹著
さいはて社
2023.2

【MIWスタッフレコメンド】

ジェンダー平等の推進やワークライフバランスの向上のひとつとして注目されている男性育休ですが、日本はまだまだ取得率が低いのが現状。本書は、その理由を、男性の育児参加をめぐる言説、育休制度の利用状況、実際に男性育休を取得した人へのアンケート調査などから明らかにしていきます。

おそろおそろ育休

西靖著 / ミシマ社 / 2023.2

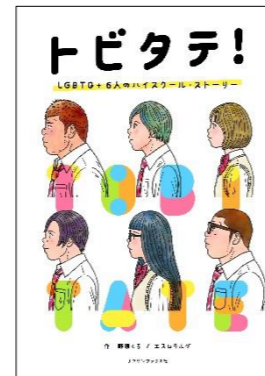
毎日放送のアナウンサーが、第三子誕生の際、育休取得を思い立ちます。実際役に立つの？休んでいいの？給料減るの？職場復帰後の居場所は？様々な家庭と仕事への不安や迷いを抱えながら「おそろおそろ」の育休体験記です。

ポストイクメンの男性育児 ：妊娠初期から始まる育業のススメ

平野翔大著 / 中央公論新社 / 2023.4

流行語「イクメン」登場から現在まで、男性の育児参加はどれくらい進んだのでしょうか？筆者は、「推進」ではなく「支援」の必要性から男性育児について考えるよう促しています。

LGBTQ



トビタテ! LGBTQ+ 6人のハイスクール・ストーリー
野原くろ、エスムラルダ作
サウザンブックス社
2022.6

【MIWスタッフレコメンド】

登場する6人の高校生それぞれが抱える性の悩みは、どれも上手く言葉にできない点では共通しています。でも、たとえば「同性が好き」とひとくちにいても、人によって、あり方、感じ方、考え方が違うことは当たり前。一見、些細に見えるけれど、そうしたとても大事な違いを認め合いながら、お互いを理解するための言葉を探すのが、この作品。巻末には、日本と世界のLGBTQ+情報も収録。

ウィッピング・ガール

：トランスの女性はなぜ叩かれるのか

ジュリア・セラーノ著 / サウザンブックス社 / 2023.5

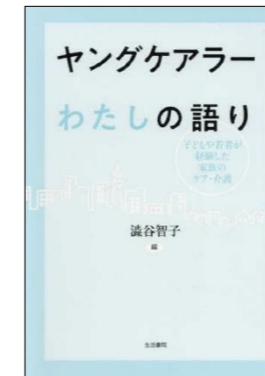
トランス女性への嫌悪・差別が、女性差別と根が同じであることを見抜いた、フェミニズムとトランスジェンダー研究をつなぐ名著。

スポーツとLGBTQ+ ：シスジェンダー男性優位文化の周縁

岡田桂、山口理恵子、稲葉佳奈子著 / 晃洋書房 / 2022.9

男性の身体を基準につくられてきた「スポーツ」を、男女の「性別二元論」からも排除されてきたLGBTQ+の視野から見直す一冊。

介護・高齢社会



ヤングケアラー わたしの語り
：子どもや若者が経験した家族のケア・介護
澁谷智子編
生活書院
2020.10

【MIWスタッフレコメンド】

日本でも認知され始めた「ヤングケアラー」。その(元)当事者たちにとって、ケアの経験はどのような意味があったのかを、それぞれの言葉で書いた本。必要なケアや関係性の違いも様々で、時に孤立しがちだった彼女・彼らによる、「自分の気持ちを大切に生きていくことができる社会を作ること」に繋がれば」という願いに心打たれます。

シンクロと自由

村瀬孝生著 / 医学書院 / 2022.7

介護する人と介護される人との間に生まれる奇妙なシンクロ。「老い」のなかにある「生き生きとした営み」に向き合ってきた著者だからこそ書ける「不自由になりつつ自由になる」瞬間の数々を集録。

親不孝介護 ：距離を取るからうまくいく

山中浩之、川内潤著 / 日経BP / 2022.10

地域包括支援センターなどを積極的に活用して、介護の負担を軽減するためにはどうするべきかを、著者の経験からまとめた本です。

生き方



それでも食べて生きてゆく 東京の台所
大平一枝著
毎日新聞出版
2022.11

【MIWスタッフレコメンド】

ネグレクトの親から逃げるように離れた学生、以前も取材をした同性カップルのその後、重いアレルギーで学校給食を食べられない子どもに弁当を作り続ける母親…。様々な台所の取材を10年続けた著者が、その台所を使う人たちの人生を綴るノンフィクション。決して素敵で写真映えする台所ばかりではないけれど、そこで食事を作り、食べ、生活する人たちの人生を「食」という視点から描き出します。

最期まで在宅おひとりさまで機嫌よく

上野千鶴子著 / 中央公論新社 / 2022.6

「在宅ひとり死」を提唱する社会学者が、個性も生き方も違う女性たちと、どのように「機嫌よく」暮らし、最後を迎えるかを語ります。10人の「おひとりさま」のロールモデルとの対談から、最期まで「機嫌よく」生きるヒントが、見つかるのでは。

孤独と居場所の社会学 ：なんでもない「わたし」で生きるには

阿比留久美著 / 大和書房 / 2022.11

学校や家族など、時に息苦しく、「孤独」さえ感じられる社会のなかで、「わたし」自身が必要だと思える「居場所」をつくることの大切さを考える一冊。